

## 上内手遺跡 第14地点

遺跡名	上内手遺跡
よみがな	かみうちでいせき
調査地点	第14地点
主な時代	弥生時代後期～古墳時代前期（約1800年～1600年前）、平安時代（約1200年前）
調査地	大字上南畑字上内手3番1、4番、5番
調査面積	1264.3 m <sup>2</sup>
調査期間	令和4年5月9日～6月22日
調査内容	<p><b>【確認された主な遺構】</b> 弥生時代竪穴住居跡7軒、平安時代竪穴住居跡1基、近世以降の溝跡6条、井戸跡4基 等</p> <p><b>【出土した主な遺物】</b> 弥生土器（甕、深鉢、埴など）、平安時代の須恵器坏、陶磁器、金属製品</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>上内手遺跡は、新河岸川の流れてきた土砂が堆積して形成された、自然堤防の上に位置しています。当遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期の遺構が多数検出される遺跡で、今回の調査でもこの時期の竪穴住居跡7軒が確認されました。また、それ以外にも平安時代の竪穴住居跡1軒や、調査区を縦横に走る溝跡、4基の井戸跡などが確認されました。溝跡や井戸跡は竪穴住居跡よりも新しい、幕末以降のものと見られます。溝跡からは陶磁器の破片や素焼きのすり鉢、金属製のキセルなどの出土がありました。</p>



弥生時代竪穴住居跡の完掘状況  
(建て替えが行われたと見られます)



弥生時代竪穴住居跡の貯蔵穴から出土した  
「埴（かん）」



弥生時代の甕が出土した様子



深さ約80 cm、幅約3 mを測る溝跡の断面